

第1回

# 3R推進全国大会

Reduce Reuse Recycle

## 報告書

**Reduce** (リデュース)  
発生抑制  
(ごみをできるだけ出さない)

**Reuse** (リユース)  
再使用  
(使えるものは繰り返し使う)

**Recycle** (リサイクル)  
再生利用  
(再び資源として利用する)



主催：環境省、愛知県、名古屋市、3R活動推進フォーラム

# 目 次

実施概要	1
第1回3R推進全国大会 式典	3
あいさつ	6
環境大臣表彰及び記念品贈呈式	10
特別講演	12
アトラクション(トークコンサート)	16
記念講演	18
大会宣言	22
第1回3R推進全国大会 関連イベント開催結果	23
第1回3R推進全国大会 ブース出展	39
広報及び参加人数等	
広報	51
参加人数	61
第1回3R推進全国大会実行委員会設置要綱	63

## 実施概要

### 1 開催趣旨

大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会のあり方や国民のライフスタイルを見直し、環境への負荷を抑えた「循環型社会」の形成のため、リデュース(ごみをできるだけ出さない)、リユース(使えるものは繰り返し使う)、リサイクル(再び資源として利用する)の3Rについての理解を深め、より広範な3R活動を推進するため、従来開催されてきた「ごみゼロ推進全国大会」を発展して「3R推進全国大会」として開催するものである。

### 2 開催概要

#### (1) 日程

平成18年10月19日(木)～21日(土) 午前10時～午後5時  
大会式典(表彰式、記念講演等)は、10月19日(木)午後

#### (2) 会場

ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場):名古屋市港区金城ふ頭

#### (3) 主催者

環境省、愛知県、名古屋市、3R活動推進フォーラム

#### (4) 大会の運営

第1回3R推進全国大会実行委員会

### 3 共催イベント

メッセナゴヤ実行委員会(名古屋商工会議所、愛知県、名古屋市)が主催する「メッセナゴヤ2006～環業見本市」が、本大会に併せて開催された。

#### 4 全体スケジュール

日 時		大会式典・イベントの内容	
10月19日 (木)	午前	↑ ごみゼロ社会推進あいち県民大会 (主催:ごみゼロ社会推進あいち県民会議) ↓	環業見本市での展示 (31ブース)
	午後	↑ 大会式典 ・環境大臣表彰 ・特別講演 ・アトラクション ・記念講演 ・大会宣言 ↓	食器洗浄車、燃料電池車の展示等  ポスターコンクール 入選作品の展示
10月20日 (金)	午前	↑ あいちクリーン活動推進大会 (主催:愛知県) ↓ 循環型社会形成推進先進事例発表会 (主催:環境省・3R活動推進フォーラム)	↑ バッチワークで作ろうMY箸袋 ↓ 3R推進中部地方大会 (主催:環境省中部地方環境事務所) ↓ エコツアー
	午後	↑ パネルディスカッション 「ごみの発生抑制を促す情報提供のあり方」 (主催:NPO法人環境文明21・3R活動推進フォーラム) ↓	
10月21日 (土)	午前	↑ 循環型社会づくり・ワークショップ (主催:名古屋市) ↓	↑ ごみゼロチャレンジャー全員集合 (主催:3R活動推進フォーラム) ↓
	午後	↑ 市民がつくる「名古屋ルール」フォーラム (主催:市民がつくる「名古屋ルール」フォーラム実行委員会) ↓	↑ リサイクル紙すき工作教室 ↓ 環境映画上映会

## 第 1 回 3 R 推進全国大会式典

日時 平成18年10月19日(木)午後1時~午後4時

場所 ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)イベント館 ホール

### あいさつ

環境大臣 若林正俊

愛知県知事 神田真秋

名古屋市長 松原武久

愛知県議会議長 内田康宏

### 環境大臣表彰及び記念品贈呈式

循環型社会形成推進功労者等表彰

3 R 促進ポスターコンクールの表彰

「容器包装廃棄物排出抑制推進員」の愛称命名者への記念品の贈呈

### 特別講演「サステナビリティ学と日本の役割」

3 R 活動推進フォーラム 会長

小宮山 宏氏(東京大学総長)

### アトラクション(トークコンサート)

下垣 真希氏(ソプラノ歌手・名城大学大学院講師)

### 記念講演「持続可能な社会をめざして」

宮崎 緑氏(千葉商科大学教授)

### 大会宣言

名古屋市立常磐<sup>ときわ</sup>小学校 児童

### 閉会あいさつ

第1回3 R 推進全国大会実行委員会 委員長

愛知県環境部長 林 清比古

# 式典会場レイアウト



## 式典舞台



## 式典会場



### 環境大臣 若林正俊



本日は、「第1回3R推進全国大会」に全国から大勢の方々にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。大会の開催にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

我が国は、これまで大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会によって、豊かで便利な生活を実現してきました。しかしその一方で、膨大なごみの排出による様々な環境への負荷が深刻化し、さらには天然資源の枯渇も懸念されるに至っています。

その解決を図るためには、廃棄物の発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)の3R(スリーアール)を進め、循環型社会を構築していく必要があります。

3Rの促進は、国際的にも重要となっています。一昨年のG8サミットで、我が国の提唱を受けて、「3Rイニシアティブ」の推進が合意されました。昨年4月には、閣僚会合を日本で開催し、我が国は、3Rの国際的な推進に主導的な役割を果たしていくことを国際社会に宣言したところです。

こうした状況の中、環境省では、数次にわたる廃棄物処理法の改正、各種リサイクル法の制定を進めるとともに、廃棄物処理・リサイクル・エネルギー回収のための施設の整備を促進するなど、積極的な施策を進めているところです。

3Rの取組は、地方公共団体、産業界、NGO、学界など、幅広い関係者の間で広がっています。本年1月には、こうした関係者が参加して「3R活動推進フォーラム」が結成されました。

本日の大会は、この3R活動推進フォーラム、環境省、愛知県、名古屋市が主催し、国民、事業者、行政が一堂に会し、知識や経験を交換するとともに、参加者一人ひとりにライフスタイルを見直す機会としていただくことで、3Rを推進することを目的としております。

ここ名古屋は、極めて進んだ容器包装の分別収集に取組むなど、循環社会型の地域づくりの先進都市であり、本大会の開催地にふさわしい場所であります。

今回の大会は、環境万博と呼ばれた「愛・地球博」の理念を受け継いで開催される「メッセナゴヤ2006～環業見本市」との同時開催となっています。ものづくりの地、愛知の企業をはじめ見本市の参加者と、3R推進全国大会の参加者との間で、知見や経験の交換が行われる絶好の機会となるでしょう。

本大会を契機として、改めて廃棄物の3Rとライフスタイルやビジネススタイルの関わりについてお考えいただき、21世紀を「環境の世紀」とするために、循環型社会づくりに力を結集して下さるようお願い申し上げます。

本日は、循環型社会形成推進功労者等表彰と3R促進ポスターコンクールの表彰、そして「容器包装廃棄物排出抑制推進員」の愛称命名者への記念品の贈呈も行われます。長年にわたり3R活動の推進に貢献され、表彰を受けられます皆様、ポスターコンクールで選ばれました小・中学生の皆様、すばらしい愛称を考えて頂きました受賞者に対しまして、心からお祝いを申し上げます。

最後になりましたが、開催に当たりご尽力いただきました愛知県、名古屋市並びに3R活動推進フォーラムの関係者の皆様方に御礼を申しあげ、大会の開催に当たってのあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。

## 愛知県知事 神田真秋



地元愛知県知事の神田でございます。

皆様方を心からご歓迎を申し上げます。

第1回の3R推進全国大会をこうして愛知県、名古屋市で開催していただきました。大変光栄に思っておりますし、遠来からのお客様を心からご歓迎を申し上げたいと思います。ようこそおいでいただきました。

また、今日は3R活動の長年のご功績で後ほど表彰を受けられます皆様方には、これまでのご尽力に敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げたいと思います。

さて、今、若林環境大臣からお触れをいただきましたが、愛知県では、昨年、愛知万博、愛・地球博を開催させていただきました。1500万人の入場目標でございましたが、2200万人を超える多くのお客様に会場へ足を運んでいただき、事故もなく、大成功だとそのような高い評価をいただいておりますことは、地元としてこんなにうれしいことはございません。

この博覧会は、博覧会の歴史の中で初めて、環境をメインテーマにして、真正面から取り組んだ博覧会でございます。環境で博覧会に多くのかたが来ていただけるだろうか、そんな心配をした時期もありましたが、環境だからこそたくさん来ていただいたと、そのように今改めて、環境の大切さを振り返っているところでございます。

実は、この博覧会の中では、様々な環境を巡っての挑戦的な試みを行いました。

博覧会の会場の中でごみの分別を徹底するなど、これまた過去の博覧会にはなかったことですし、新エネルギーをどんどん導入しまして、パビリオンの電源、空調などにそれを活用したということもございました。いろんなチャレンジをしたわけでございます。

私は、今回の博覧会を通じまして、地域の皆様方が、環境を大切にする心、3Rを大切にする心、これが大いに養われたものと存じております。

これから、博覧会の成果・理念をきちんと継承して、これを活かしていく時代になってまいりますので、私ども博覧会を開催した県として、これからははずかしくない様々な活動を展開していきたいと考えているところです。どうか皆様方のなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

そして、この全国大会などを通じて、3Rの心がどんどんどんどん広がり、自然と人間の係わりがやさしいものになるように、そんなことを大いに期待しているところでございます。

お集まりをいただいております皆様方は、日頃それぞれの立場で、第一線にたって環境活動をしっかりと取り組んでいる方でございますので、いわばリーダーという方ばかりでございます。どうか今後とも力強いご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

今回のこの全国大会の開催にあたり、多くの皆様にご協力を得ました。心から様々な皆様方のご支援に感謝を申し上げ、地元として一言ご歓迎のあいさつとさせていただきます。

今日は、ありがとうございました。

---

## 名古屋市長 松原武久



ご紹介いただきました、名古屋市長の松原でございます。名古屋市は、昨年の愛・地球博の母都市として国内外の方々をお迎えし、今年度はこの3R推進全国大会の第1回の開催市として、皆様方とお目にかかり、情報発信の機会を得まして、大変ありがたく思っております。

名古屋市では、8年近く前になりますが、藤前干潟の埋立断念に伴いまして、平成11年に「ごみ非常事態宣言」を行いました。この非常事態宣言は、20世紀中の2年間で20%、20万トンのごみを減量する、いわゆるトリプル20という大胆な目標を、市民の皆様にも率直に訴えたものでございます。その後も3Rを一層進め、懸念されましたリバウンドもなく、現在では当初の3割減というごみの減量を達成いたしました。

この大きな成果は、埋立場がなくなるという危機意識をこの大会の実行委員会のメンバーでございます名古屋市保健委員会の皆様や市民の皆様と共有し、容器包装リサイクル法の完全実施などに取り組んだ市民の皆様方の献身的な努力が身を結んだものでございまして、このごみの減量はもとより分別する文化、協働文化が名古屋に育ったものと思っております。

愛・地球博の開会式で「未来の子供たち」に、緑豊かで、温暖化のない環境を引き継ぎ、将来にわたり桜の下で入学式が行えるようにすることを約束しました。私は今、未来の子供たちとの約束のバッジを胸に付けておりますが、このバッジは、名古屋でエコライフ宣言をした人、環境活動をきちんと行う人に与えられる、決してお金では買えないバッジであります。今多くの市民が、このバッジを付けることに誇りを持つようになってきておりまして、エコライフ宣言をして下さった方が、既に30万人を超えました。

ごみ減量で培いました協働の力を発展させ、市民、企業、NPOや大学等様々な関係者と協働し、今後はCO<sub>2</sub>削減などより高い目標へ向かって一生懸命努力しようと思っております。その一つの具体的な取組として、EXPOエコマネーセンターを市内の金山に誘致し、CO<sub>2</sub>の削減を目に見える形にする、ポイントシステムを導入いたしました。エコ活動をした人に色々なポイントを与え、最終的にはエコ商品に換える、あるいは植樹に寄付するといった、そういう運動を今興そうとしております。大変困難を伴いますけれども、これを市民ともどもやりきりたいと、思っているところでございます。

2010年、名古屋市は開府400年を迎えます。この2010年には、生物多様性条約の締約国会議をここ愛知・名古屋で開くことができないかと思っております。多くのことに先進的に取り組みまして、名古屋は環境首都になることによって、条約締約国会議を開く名誉を担いたいと、心から思っている次第でございます。

本日から3日間開催されます3R推進全国大会が、参加者の皆様の交流、学び合いを通しまして、全国各地での循環型社会づくりへと発展することを、心から期待する訳でございます。皆様方の格別のご協力、ご示唆を心からお願い申し上げまして、ごあいさついたします。

---

## 愛知県議会議員 内田康宏



ただいま御紹介賜りました、愛知県議会議員の内田康宏でございます。

本日、全国から、多くの皆様方をお迎えし、本県で、記念すべき第1回目の「3R推進全国大会」が盛大に開催されますことは、この上ない喜びであり、地元県議会を代表いたしまして、心から祝意を表するものであります。

また、この後、栄えある表彰を受けられます皆様方には、循環型社会の形成に向けたご尽力・ご功績が広く認められたものであり、深く敬意を表しますとともに心よりお祝いを申し上げます。

さて、私たちは今、地球温暖化や将来的な資源・エネルギー需給など、地球規模での環境問題に直面しております。美しい地球を守るため、我が国は率先して持続可能な循環型社会の構築に取り組んでいかねばなりません。こうした中、資源の消費を抑制し、環境への負荷を小さくする3R（即ち、リデュース、リユース、リサイクル）の推進は、国民にとって身近な取り組みであるとともに、循環型社会づくりの中核となるものであります。

本県では、昨年、「自然の叡智」をテーマとした「愛知万博」が皆様方のおかげで大成功を収めました。これを契機として、環境問題に対する意識が非常に高まり、この3Rについても、内外に広く情報発信されたところであります。今後、私たちは、この万博の理念と成果を継承し、発展させていく中で、循環型社会づくりを積極的に推進していかねばなりません。

こうしたことから、皆様方が、この大会に積極的に参加され、資源循環型社会の構築に向けて、ご尽力頂いておりますことは、誠に意義深く、大きな成果につながるものと期待されるところであります。

私ども愛知県議会といたしましても環境万博の開催県として、より先進的な取り組みを進めるべく、全力を尽くしてまいり所存でございます。どうか皆様方におかれましては、3Rの推進など、循環型社会の構築に向けた取り組みに、より一層ご尽力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、ご参会の皆様方のご健勝を心からお祈りいたしましてごあいさつとさせていただきます。

## 環境大臣表彰及び記念品贈呈式

### 循環型社会形成推進功労者等表彰(大臣表彰)

先駆的または独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を挙げている個人、企業または団体の方々を表彰するもので、今回は次の方々が表彰されました。

#### 3 R活動推進功労(個人)

田中 三徳さん(富山県)  
栗田 たか子さん(長野県)  
井戸 輝雄さん(岐阜県)  
山本 康子さん(愛知県)  
浦 武さん(長崎県)  
秋元 智子さん(埼玉県)



廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を展開し、これらの活動の推進に熱意と識見を有する方

#### 3 R活動推進功労(団体)

七戸町立七戸中学校(青森県)  
社会福祉法人親泉会(青森県)  
仙台生ごみリサイクルネットワーク(宮城県)  
かりや消費者生活学校(愛知県)  
リサイクルクラブ天理(奈良県)  
有限責任中間法人堺臨海エコファクトリーズ協議会(大阪府)



廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を目的とする団体であって、これらの活動を継続的かつ着実に推進してきた団体

#### 3 R活動優良企業

いすゞエンジン製造北海道株式会社(北海道)  
林金属工業株式会社(長野県)  
有限会社 健養(大阪府)  
フジ化成工業株式会社(鳥取県)  
株式会社フードプラン(高知県)  
三和酒類株式会社(大分県)  
バイオエナジー株式会社(東京都)



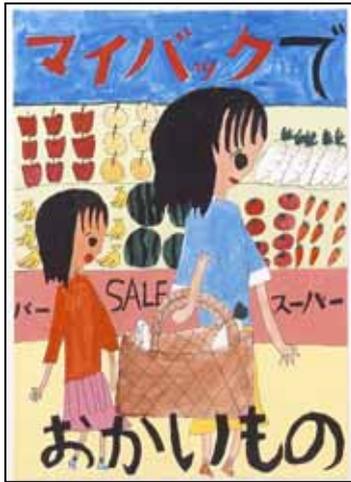
廃棄物等の発生抑制、循環的な利用及び適正処理を実現した企業であって、次のいずれかに該当する企業

- イ その工場又は事業所等の事業に係る拠点において、当該事業活動に伴う廃棄物等の大幅な発生抑制又は循環的な利用の大幅な拡大を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの
- ロ その製品等について、廃棄物等としての相当程度の発生抑制、循環的な利用の相当程度の拡大又は適正処理の飛躍的な向上を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの
- ハ 廃棄物等の大幅な発生抑制、循環的な利用の大幅な拡大又は適正処理の飛躍的な向上のための技術、製品又はシステムを実用化し、かつその普及を図るもの

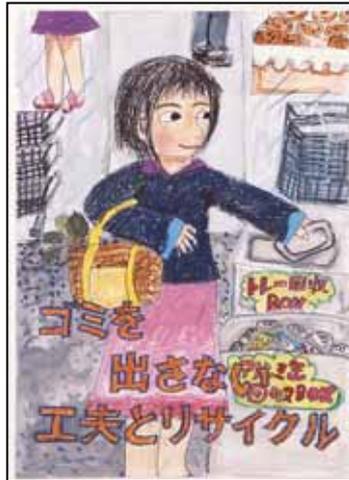
### 3R促進ポスターコンクールの表彰(大臣表彰)

「3R促進ポスター」は、小学生低学年、同高学年及び中学生を対象に過剰包装の抑制、リユースカップの活用、リサイクルへの協力など『3R』、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)を通じて循環型社会の構築を推進することをテーマとしたポスターを募集し、次の最優秀作品に選定された方々が受賞されました。

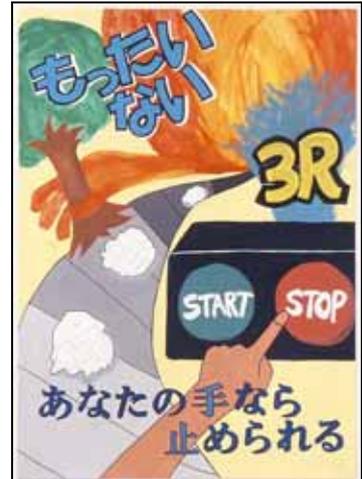
#### 最優秀受賞作品



小学生・低学年の部  
まちだ ちなつ  
町田 千夏さん  
(栃木県足利市立  
青葉小学校3年)



小学生・高学年の部  
たていし めい  
立石 明さん  
(徳島県吉野川市立  
知恵島小学校4年)



中学生の部  
こんどう ゆうき  
近藤 友樹さん  
(茨城県牛久市立  
牛久第三中学校3年)

「容器包装廃棄物排出抑制推進員」の

愛称命名者への記念品の贈呈

愛称「3R推進マイスター」

命名者 広川雄三さん(愛知県春日井市)



## 特別講演 「サステナビリティ学と日本の役割」

3R活動推進フォーラム 会長  
小宮山 宏氏(東京大学総長)



御紹介をいただきました小宮山です。

3Rは極めて重要な日本から発信するコンセプトですが、その背景には21世紀の人類社会の持続可能性というものがあります。最近、サステナビリティ学という形で世界に発信しているところでもあり、3Rと日本の置かれている状況、その意味について少しお話をさせていただきたいと思います。

今日の話の概要は、私は最近、「課題先進国」という言い方をよくしておりますが、まずその意味を御紹介させていただきます。それから、21世紀の持続可能性という問題が問われていますが、その背景にある「20世紀の膨張」のこと。「ビジョン2050」という、2050年にこういう状態ができていれば、人類はサステナブルでいられるのではないかという私の提案。そして、「知識の爆発と構造化」、これは社会が知の結集を求めていることと関連します。最後に、「課題先進国」を「課題解決先進国」にしようという提案です。

まず、課題先進国の意味ですが、日本はヒートアイランドの問題でありますとか、もともと天然資源が非常に乏しい国ですから、輸入に頼るエネルギーの問題、廃棄物の増加、環境汚染、高齢化、少子化とか過疎化、都市化など様々な課題が生じており、課題には事欠かず、押しつぶされそうになっています。

よく考えてみれば、これらの課題は、資源が乏しく狭い国土に世界で10番目という大きな人口を抱えていて、そこに極めて高度な産業社会ができあがっているという状況に起因しており、いずれの課題もそこからきていると考えられます。

しかし、もう少し考えてみると、狭い国土に、資源がなく、人口を多く抱え、産業が発達している状況というのは、まもなく中国やインドが先進国になるわけで、まもなくというのは、10年20年という単位の将来ですが、そうした時に21世紀の地球は世界中で資源がなく人口を多く抱え産業が発達した社会という状況になるわけです。既に資源の不足というのは石油価格の高騰という形で現れ出しています。

日本の課題は、非常に大きく、かつ、深刻です。それはわれわれが21世紀の地球の課題を先取りしていると考えべきではないでしょうか。ということは、日本の課題を自らのモデルで解決すれば、それが世界の21世紀の新しいモデルになっていくと考えられます。私たちには、それを行う力も実績もあるということを申し上げたいのです。

いくつかの事例を上げますと、日本は世界第2位の生産力を持つ経済大国であります。アメリカが一番大きいのですが、日本は、3位のイギリス、4位のドイツを合わせたぐらいの生産力もっています。一方、日本はCO<sub>2</sub>排出大国ということがいわれます。確かに経済活動が大きければ、それに応じてエネルギーを使うわけですから、CO<sub>2</sub>の排出は多くなります。しかし、日本は、全体の11%の生産に対して、CO<sub>2</sub>は全体の4.9%しか排出していません。一番多い、アメリカは全体の約1/4の生産を行っておりますが、それに応じたエネルギーも使っており、CO<sub>2</sub>もおよそ1/4を排出しています。つまり、日本は、主要国ではエネルギー効率の最も高い国なのです。

では、どうやって高いエネルギー効率ができているかということです。1つは日本の半分を占める

ものづくりの産業であります。このものづくりの効率が高いことがあげられます。何の例を持ってきても同じですが、セメント生産の例を上げますと、日本では、1960年頃から省エネに努めて、30年間の間に6割ほど生産にかかるエネルギーが減っています。これはプロセスが4段階に新しくなっているため、昔は、湿式法という方法で作っていましたが、その後、乾式法に代わり、これにサスペンションヒーターというエネルギー回収プロセスを取り入れ、現在は、さらに効率のいい、ニューサスペンションヒーターというものが取り入れられたプロセスで行っています。だから効率がいいわけですが、アメリカは1990年代のデータですけど、日本の1960年代の頃のプロセスで行っており、日本の1.8倍もエネルギーを使っています。

一方で、使う側でのエネルギー効率も高くなっています。自動車の燃費を例に上げると、横軸に車の重量をとり、縦軸に1km走るのに必要なガソリンの量をとると理論的には直線に並びます。自動車は摩擦に抗して走っており、摩擦は重さに比例するからです。外国の車でグラフを書くとき直線に乗ります。日本の車でも一直線に乗りますが、外国の車と日本の車を比べると20%程度違います。これが技術の差です。ハイブリッドカーではさらに半分になっています。自動車以外にはエアコンの効率でも世界で断然高い状況です。このように、技術によるエネルギー消費の削減の余地は極めて大きいのです。また、日本では、去年、プラスの経済成長にもかかわらず、1980年代以降初めてガソリン消費が減っています。こういう国は私が知っている限りではありません。ガソリン消費が経済成長にもかかわらず減っているというのは、車のエネルギー効率がよくなっていることの反映だと考えられます。



では、環境についてはどうでしょうか。日本の環境技術の一つの例ですが、火力発電所で単位当たりの電気を作るのにどれだけの硫黄酸化物を排出しているかをみると、1999年のデータですが、日本は、アメリカの1/20以下しか亜硫酸ガスを排出していません。1990年代では、世界で4,000台の排煙脱硫装置が動いていましたが、そのうちの3,200台が日本で動いていました。本格的に脱硫していた国は日本だけだったのです。その後、だんだんと欧米も追っかけてきており、2002年では少し接近してきましたが、それでもまだ環境先進国といわれるドイツでも、日本の3.5倍も排出しています。つまり、日本は頑張っているということです。環境・エネルギーの面でも先進国の一つであることはまちがいありません。日本の自然環境は、1960年代頃は非常に汚れていました。この写真は、北九州の例ですが、当時はこれも成長の証しといわれていました。でも周辺の住民は大変な目に遭い、手ひどい経験をしました。これがどうなったかという、今はここまで改善されています。これだけのことをやってきたわけです。私は東京ですが、東京でも隅田川はヘドロと臭いでとても船を浮かべる気にはならなかった状況でしたが、今では観光用の屋形船で遊べ、白魚が上がる状況にまでなっています。こうした環境への取り組みは、モラルが高かったからやったわけではありません。それは、狭い国土で産業が集中しており、直ぐ近くに人が住んでおり、排出するとすぐに人が被害を受けるため、それでやむを得ずやったわけです。また、なぜ、日本のエネルギー効率が高くなったのかは、それはエネルギーを輸入に頼るため値段が高いからで、一生懸命エネルギーを減らすプロセスを作ったわけです。つまり、課題があったので、我々はこういう状況を実現したといえます。世界がやがて経験する課題ですから、我々は、世界に先駆けて21世紀の地球の課題を抱えているといえます。従って、外国には答えはありません。外国に答えを求めるの

---

ではなく自分達でやる。これが先進国のマインドだと思います。自分の問題は自分で解決する。課題が顕在化してないところには答えはありません。3年ほど前、ヨーロッパを熱波が襲い、フランスでは16,000人の人が死にました。熱波と言っても35~37の気温が5日間程度続いただけです。暑さに対して慣れており、インフラも整備されている日本では考えられないことです。ヨーロッパは基本的には寒い国ですから、ヒートアイランドの答えは持っているはずがありません。ヒートアイランドの答えは我々が出すしかないので。我々が出せば、それをアジアの人は見えています。自分達の問題を自分で解決していく。そのモデルが、世界に導入されてデファクトになっていく。これが本当の国際競争力であろうと考えます。その中での3Rというのはいい発信だと思います。21世紀の基本的な方向を示していると思うからです。

それでは、我々が抱える課題の背景となった20世紀を振り返ってみましょう。20世紀は、人類膨張の世紀であり、100年の間に人口は3.5倍、穀物生産は7.5倍、エネルギーの消費、鉄の生産などは20倍にもなっています。人類は誕生以来絶えず膨張してきましたが、20世紀の膨張は、地球全体のレベルで影響を与えだしたというのが特徴です。その象徴的な例が、二酸化炭素濃度です。地球の平均の気温を決める二酸化炭素濃度といった基本的な数値を変えてしまうぐらい人間の活動が大きくなったということです。これが20世紀の膨張で、それを受け継いだ21世紀の今、持続可能性ということが問われています。



私は、1999年に「ビジョン2050」を発表しました。2050年にエネルギーと物質に関してこういう状況ができていけば人類は今後も持続できるだろうと考えたものです。結論は単純で、物質循環システムの構築、エネルギー効率を3倍にする、自然エネルギーを2倍にするということです。今、エネルギー資源は、8割が化石資源で2割が原子力、水力、バイオマスなどです。この2割を4割まで上げるというもので、技術的、経済的に大きな負担なしにできる極めていい目標だと考えています。

それでは、この物質循環システムの構築についてお話しします。人類にとって循環型社会はできるのかできないのか、大きな問題です。例として鉄を取り上げますが、鉄というのは基本的に循環にふさわしいものです。鉄は、鉄鉱石を掘ってきて、コークスで還元して、高炉で作っています。1999年時点では、鉄鉱石を還元して作る鉄は年間5億トンですが、全体では8億トン作っていますので、3億トンに当たる40%はスクラップから生産しているわけです。自動車の廃車を集めて鉄の原料として溶かして作っております。鉄は、一度高炉で還元されたら後はずっと人間社会で形を変えて使っています。なぜ3億トンのスクラップが出るかというと、現時点では、世界に100億トンの鉄がたまっていて、30年位で鉄の寿命がくるため、1年で3億トン出てくると考えた訳です。これが、2050年にはたまっている鉄は300億トンになります。30年間では毎年10億トンの鉄がスクラップとして出てきます。この時点で必要な鉄は12億トンぐらいと考えますが、そのうちのほとんどの原料はスクラップにならざるを得ません。しかも、循環としては、それだけではだめです。今は、自動車をスクラップにすると建築用の資材などにして使っています。いずれこういう状況になってくると自動車から自動車へ、スチール缶からスチール缶へという水平リサイクルに向かわなくてはなりません。社会としてこういうシステムは作れるのか、技術の問題もありますが、設計の問題もあります。どういう商品を作っていくのかなど社会の協力も必要になります。

ここでちょっと話をかえませんが、基礎を考えていくということが重要で、基礎が分かれば視界が開けるということです。輸送にかかるエネルギーの理論値はゼロ、分別のエネルギーの理論値は非常に少ない。分別はお金がかかるだけでエネルギーがかかるわけではありません。社会が上手く協力して、上手い全体社会のシステムの商品設計などを行えば、エネルギー効率のいい循環システムができる可能性があり、これが大事です。日本では、明治維新以降、途上国型で政策をやってきました。それで最後に成功したのが、高度成長政策だったと思います。何をやるかがわかっており、モデルが欧米にあったわけです。明治維新は1868年ですが、ちょうど百年後の1968年に日本は世界第2位の経済大国になりました。ここで完全に世界に追いついたといえます。明治維新の時には生産力が遅れていただけで、文化で遅れていたわけではありません。コンセプトを掲げて、そこに向かう。そのコンセプトを自分たちで作れるかがポイントです。そこが先進国か2番手を走る途上国かの別れ道で、これからは、先進国のマインドを持つといいたいです。



現在は、知識が爆発的に増大しています。昔と違って科学の専門家という人はいません。皆、非常に細分化された分野の専門家となっています。ところが、循環型社会あるいは持続可能社会というのは、極めて全体像を必要とする分野であり、どう社会のコンセンサスを得ていくのかが問われている問題です。エネルギー問題でも同じです。20世紀は膨張の世紀であり、物質生産が膨張した結果、環境資源問題が顕在化しました。一方、知識が増大した結果、全体像の喪失という問題が起きました。循環型社会、持続可能社会の実現のためには知恵を結集して新しい解を作らなくてはなりません、そのために必要な全体像が見えなくなっているのです。誰にも見えなくなってしまうています。私は環境の専門家と紹介されることがありますが、私に分かる環境は、温暖化問題の中のエネルギー側で、しかも技術論ならば専門家ですが、環境は温暖化の問題だけではありません。水の問題もあり、汚染の問題もあったりして、広い意味での環境問題の専門家はいません。それをお互いがよく分かったうえで、どうやってコミュニケーションして全体像を共有していくか、その努力が必要となるわけです。これは日本が得意な分野であり、日本が率先していく必要があります。

ただ、国際的な協調は極めて重要で、世界の大学と連携して、例えば知識の構造化というコンセプトについても議論しています。国際的にはもちろん仲良くしていく、だけでも自分達の課題を自分達が解決していく「課題解決先進国」になるということが必要です。資源が乏しく人口密度が高い先進国ということから生じている日本の様々な課題、これは地球の未来像でもあります。中でもエネルギー・環境問題は21世紀の基本的な課題であり、社会モデルとして一番近いのは日本です。日本には21世紀型社会に近いモデルがあり、課題も解決の実績ももっています。自分達の課題を自分達で解決する努力を進めていくことこそが日本の世界的な役割であり、また、国際競争力の源泉となると考えています。その意味で、先頭に立つ勇気が我々に求められています。どこかでやっているからやるのではなく、自分達が正しいと思ったことを実行するこの勇気が必要です。それができる場として、3Rはいい場になると考えております。

ご静聴ありがとうございました。

## アトラクション(トークコンサート)

下垣 真希氏(ソプラノ歌手・名城大学大学院講師)

### ふるさと

みなさま こんにちは

今日は3R推進全国大会、第1回目ということでこのように多くのかたがお集まりをいただき大変うれしく思います。やっぱり、リデュースやリサイクルの気持ちの根底には日本を愛する心がなければなかなか行動が伴わないものです。田舎にあるような美しい自然というのが今ではなかなか都会では見られなくなったことはとても残念なことです。

日本の歌には、いろいろな豊かな感性が織り込まれていますが、それは日本人が自然と共に生きた時代の感性を持って作った歌によく見られることです。ですから、今日は日本の歌を中心に皆さんに歌を聴いて頂こうと思っています。ソプラノ歌手の下垣真希です。よろしくお願いします。

学校で唱歌という美しい歌を歌わなくなって久しいこの頃、「ふるさと」もうさぎ鍋かなんかの歌なんかと思っている子がいるらしい、うさぎ美味しいとかね(笑)困ったことですね。日本人は豊かな四季感、季節感を持っている。食べ物や着るものにしてもそうです。今から聞いて頂く歌は、日本の四季の歌を順番に歌いつないだものです。日本は美しい国、美味し国です。山あり、川あり、周りを海に囲まれているほんとうにこの豊かな自然、私たちが守っていかなくてどうなるでしょうか。後世の日本のために是非今、私たち一人一人ができることをやりたいものですね。

それでは、日本の四季をお聞きください。



### 日本の四季 メドレー(浜辺のうた、里の秋、雪のふるまちを、花)



夏の雰囲気から秋、そして冬、春と聞いていただきました。

私は実はドイツに8年半ほど暮らしました。環境大国としても有名な国です。あの国はしょっちゅう森を無くしている。戦争で国土が荒廃した経験が何度もある。木を植えても日本の3倍ぐらい時間がかからなければ木が成長しないという厳しい自然環境の中です。だからこそ自然というのは

自分たちが守ってやらなければいけないという意識を強く持っています。ですから、戦争が終わっ

た後に町作りで最初に手がけたのが森をつくることだったという町もあります。それが、70年代後半になって酸性雨の影響でどんどん木が枯れはじめた。毎週日曜日になるとドイツ人は家族そろって森を散歩するのが一番のリクレーションです。木がどんどん枯れていく様子を市民が見て、自分達の植えた木が枯れていくのを何とか食い止めよう、その思いが環境大国となって、80年代頭には、みんなマイバッグを持ってお買い物に行くのはごく当たり前、すべてを分別してごみを出すのは当たり前、そういう精神が育ったんですね。

日本も短期間のうちに進歩を遂げましたので、日本人が日本のすばらしさを認識しこれからも守ってこうと考えるなら、3Rの精神をどんどん広げて行って欲しいと思います。

♪♪ ます

♪♪ 月の砂漠

日本人の優しい感性がつくと砂漠すら大変ロマンチックになります。この歌は、日本の浜辺を見て作詞されたものですが、実際の砂漠は厳しい、昼間は死を意味する世界なんですね。地球の砂漠化が進んでいることに人のことと思わないで、自分ができることから何か初めていかなくてはとそんなふうに思います。

最後に聞いて頂くのは、人間いつでも新しくやり直しができますというエールを送ってくれる歌です。世界で愛されている歌、皆さんよくご存じの「アメージンググレース」です。これは奴隷の売買をしていた人が作詞をしました。彼は人を人とも思わず中には傷つけ殺した人もあったそうです。けれども嵐で自分が死にかけたときに初めて生きたい、そして命の重みを知りました。無事に陸に戻ったとき、彼は自分を悔い改め、新しい生き方を選びました。

私たちもこの地球に生かされている、毎日新しく生きていけるということ意識し、みなさんが一人一人これからも3Rを心にとめ、この精神を広げていただければという願いを込めて最後に「アメージンググレース」を歌いたと思います。本日はどうもありがとうございました。



♪♪ アメージンググレース



宮崎 緑氏(千葉商科大学教授)

皆様こんにちは、宮崎でございます。

世の中本当に大変なときになりました。パラダイムシフトと言いますが、20世紀から21世紀にかけて行動規範とか価値観とか様々なことが移り変わってきており、国際社会を動かす要素がずいぶん変わってきました。

世の中が大きく変わっていることは間違いないわけで、エネルギーの使い方にしてもこれまでのやり方とは随分違ってきました。大規模集積型から、個々人のライフスタイルが変わって行って、一人一人のちょっとずつ使うのが集積されて、そちらの圧力の方が大きくなるというような形に変わってきています。情報の流れでも同様で、世の中の変化がどうもそんな風になっていっているのが見えてきます。最初の講演で小宮山先生がおっしゃったように組織がたくさんになったのが大変だとおっしゃった、ああいう形になっていく、分散型になっていくということになるわけです。そうすると、一人ひとりのライフスタイル、一人ひとりの考え方、一人ひとりのエネルギーの使い方が地球に大きな負荷を足し算となってかけていくという時代になってきます。

一人当たりのエネルギー消費量ですが、同じ生活をするのに、アメリカ8.0、日本では4.1、日本の2倍つかっているわけです、つまり浪費構造です。日本は省エネ優等生です。同じ結果を出すのに、同じ暖かさ、同じ車の移動などライフスタイルをとるのにこれだけがんばっているのですが、これはがんばって少ないわけなのですが、途上国は、まだそこまでいってなくて少ないわけで、それがどういう形になるかという、今中国では1/6ぐらいですが、アメリカ並みのライフスタイルになれば12倍になるわけです。

これは、中国だけではありません。アジアの他の国々、中国は15%ですが、アジア全体でも15%です。中国以外のアジア、たとえばベトナム、インドなど大変大きな割合を占めています。でも今や注目すべきなのはBRICsです、今台頭してきている21世紀の主要な枢要な柱を担っていく国の頭文字ですが、これはBはブラジル、Rはロシア、Iはインド、Cは中国です。この4つの地域が21世紀の地球をひっぱっていく重要な役割を果たす国だということで当然そこで資源の使い方やエネルギーの使い方もシフトしていくということになります。

日本の人口は、どんどん減っていますが、代わりに、途上国を中心に人口爆発です。大体、今1年間に8000万人ほど増えています。人口の増え方は、20世紀初頭は16億でした。産業革命前、18世紀以前までは横ばいでした。産業革命、19世紀ぐらいからぐっと増えて20世紀当初では16億だった人口が20世紀末には60億を超えたわけです、今世紀中頃では100億の時代を迎えるだろうと、統計でいえば93億ぐらいになるだろうといわれています。

人口増加などが1秒当たりどうなっているか計算した方がいらっしゃいます。東大の山本先生ですが、データをお借りしてまいりました。人口増加は2.4人、CO<sub>2</sub>排出量は762トン、トンでいわれると分からないですが、出たうちで蓄積される、消えるのもあります、海に溶ける。ここが大事です。植物が吸収して光合成で酸素を出します。浄化作用しています。緑というのは本当にありがたいものです。私が世の中で一番いいなと思う標語は「みどりを大切に」で、いいことばだと思いますが(笑)。

---

緑被率という言葉があります。緑に覆われている率ですが、ある地域で25%増えるとその地域で出されるCO<sub>2</sub>の4%を吸ってくれるというんですね。だいたい10%緑被率が増えると平均気温が、0.7度クールダウンされるそうです。

すでに、気候変動が現れています、温室効果です。温暖化ガスが地球の周りを取りまいて温室のガラスの役割をはたしてだんだん暖かくなってしまいます。どれくらい暖かくなるかというIPCCの気候変動枠組み条約の政府間パネルの計算によりますと2100年で世界の平均気温は、1.4から5.8 上がる。悪くすると5.8 上がってしまいます。中とっても2~3度平均気温は着実にあがるだろうといわれています。これは百年後にピュンと上がるのではなく、今じわじわ上がっています。平均気温が高い年、反動で低い年、ギザギザになってそこに収束するだろうといわれています。100年経つと止まるのではなく、さらに先にいってしまいます。

気候変動というのは、いろんな要素があるのですが、さきほどいいました南極の氷が溶けて海に落ちていきます。するとどうなるか。極地の氷がとける。それから海の水が膨張して増える、両方の要素で海面が高くなるわけです。この海面上昇が、世界の海水面が88cm上がるというのがだいたい専門家の一致した見解です。平均で2度上がると50cm、3度あがると60cm海面が上がるといわれています。日本の場合は60cm上がると、今の海岸線の9割が沈みます。だいたい60cm上がると東京湾は埼玉県の熊谷市くらいまで東京湾になるそうです。それから、水が溶け込みますから、塩分の濃度が変わってきます。温度が変わってくる。氷がとけるので冷たくなったり、あるいはエルニーニョで海水温度が上がってしまう、赤道直下では暑くなりますので温度が上がってしまう、これで何が起るかという海流が蛇行してくれなくなるのです。温度差があるので蛇行するわけですが、これが変わりますので上まで上がってこない。そこでヨーロッパは温暖化によって寒くなるそうです。ル・モンドというフランスの高級紙、権威ある新聞では、かつてこんな政治風刺漫画を出しました。「かつて恐竜は寒くなって絶命した。寒冷化で絶滅した。今人類は温暖化で凍え死のうとしている」というような皮肉な漫画を載せたことがありました。ですから、温暖化では全部暖かくなるわけではないわけです。つまり気候変動です。ですから、そういうことも考えて、温暖化を防ぐためのCO<sub>2</sub>の削減目標ですが、日本では90年レベルに比べて6%削減しようじゃないかというもので、京都議定書の規定でございます。ヨーロッパはEU全体として8%、アメリカは7%とっておきながらアメリカは抜けました。日本は6%削減といいながら、今どうなっているかという、90年レベルより8%増えている。2008年から12年までに実現していかなければならない、ぎりぎり削っていかなければなりません。大変な時代になっています。

では、そのエネルギーの消費量がどこで使われているかというのを最終エネルギー消費量で見ていきますとざっと3つに分けて運輸部門、民生部門、産業部門になります。73年から始めたグラフですが、73年は何かというと第1次オイルショックの年で、昭和でいうと48年です。これで見るとオイルショック以来産業部門は、利潤がかかっているから省エネなどを進め、かなり押さえて1.05倍とほぼ横ばいを達成している。増えているのは民生部門と運輸ですね。民生部門というのは家庭で使っている部分です。家庭では2.3倍の増え方をしている。それから運輸部門も貨物ではなく旅客です。旅客のなかには自家用車も入っています。こういうので増えている。つまり1人1人のライフスタイルがエネルギーの消費量を上げているというところがあるわけです。

このためにでてくるのが、3Rですね。このエネルギーの使い方、あるいは物資の使い方、環境に対する態度というのをこれでやっつけていこうじゃないか。これが3つのRです。Rを頭文字とした、単語

が3つ並んでいまして、リデュース、リユース、リサイクルとよく言われますが、リデュースは無駄なものを作しません。反対語は、プロデュースで作る方ですがプロデュースの反対語です。それからリユース。リとはもう1回という意味があります。再会、リユニオンです。このもう1回使おう、つかいまわししようじゃないか。リユースです。もう1回使おうと思ってどうにも使えないものがあります。例えばペットボトル、これだって何回も使う訳です。ペットボトルで中味を飲んだ後、ゆすいで水入れて自分の水筒代わりに持って歩く、何回も入れていると、くもったり割れたりこわれたりしてどうにも使えなくなったときにどうするかというと、溶かして繊維にして洋服の原料にしてリサイクルとかです。形をかえてつかっていくリサイクル、リデュース、リユース、リサイクルといわれておりますが、実はこれにもう1つRをたそうじゃないかという4Rという運動がかなり前から生まれています。

プラスアルファでもう一つRをつけよう。これはなにかというリフューズです。拒否する、拒絶する。つまり環境に悪いものは消費者として NO といっていきましょうということです。グリーンコンシューマーという言い方がありますが、環境対応型のライフスタイルをとります、例えば、環境に優しいものだったら優しくないもの比べて多少割高でもこっちをえらびますというような行動が取れる人たち、こういう人たちがリフューズしていきましょうということです。



実は、経済発展が環境を破壊したり、自然を破壊したり、エネルギーを使ったり、わりと環境と対立する概念に思われがちですが、実はエコという語源は、オイコスという古代ギリシャ語です、オイコスというのは家という意味です。この家を運用するのがエコノミー、経済です。この家をより快適に維持、住まっていくのがエコロジーです。同じことです。エコとは同語源なのです。本来経済と環境は対立概念ではなかったはずです。

それが対立したのは20世紀型の西洋的な自然観に基づいた開発だったのではないが、創造的破壊、何か新しいものを作るには、破壊して創造する、あるいは、自然に対する感覚というのも、人間と自然が対峙する、向かい合う、対立する、そして克服するところに文明を開いてきたという感覚です。対するアジア的な感覚というのは自然のふところに抱かれて、活かされている、ずいぶん感覚が違います。だから、持続的発展と言いますが持続の中味が文化価値観によって違います。石の文化、長く保たせるためには素材で保たせる。石で作るコンクリートで保たせる。こういう感覚の文化と、我が国は木や紙の文化です。建物なんか木や紙で作る。当然素材では石と木を比べたら木の方が弱いです。腐る、虫に食われるあつというまにだめになる。ところが、世界最古の木造建物、法隆寺なんていうのを見ますと1300年保っています。石づくりの建物よりも古く保っています。今、石造りの建物、ギリシャの建物は、酸性雨で、排気ガスに含まれる亜硫酸、亜硝酸が水と反応した酸性の雨が降って溶けていく、遺跡が溶けていく大変だという事態になっており、素材そのものが危ない。ところが、法隆寺形式ですと、1300年の命をもたせるために確かに部品としての素材は腐ったり、虫が食ったり紙が破れたりするわけですが、そこを補修改修し、つなぎ合わせて回転させることによって建物全体の命を保っています。伊勢神宮の式年遷宮は20年に1度立て替えられていますが、伊勢神宮はいつ造られたのと聞いて20年前という人はいません。これは、精神を保っているわけです。つまり持続の中味が違います。今、持続の中味を新しい21世紀型の環境対応ライフスタイルとして世界に向けて発信していくことがまさに求められています。破壊的な開発で痛んで

---

しまった地球を救う道は、私たちのライフスタイル中にあるのかもしれませんが。

私の親しいドイツ人の学者で、環境の専門家なのですが、彼が研究した結果、何のことはない、私たちがこうするべきだと、人類はいままでにない挑戦をすべきで、過去の延長線ではなく地球と持続的にやっていく方策はなにかと一生懸命考えたことが、日本に来てみたら古来から日本がやってきた、それだといえます。リサイクルだってもったいないとつぎあてしたり、お父さんのワイシャツを作り直したり、昔は着物を仕立て直していたわけです。今、ケニアのマータイさんが「もったいない」と言う言葉を世界に広めてくれました。これも日本人が自分の文化ですから自分で広げればいいのですが、逆輸入で入ってきたのです。今まであった大事なものをもう1回見直すことも大事であるということが今まさに問われています。世界の大きな歴史の転換点でもう一度足下を見直して、不易流行です、変えるべき所は変える、守るべき所はまもる。そして3Rといっていますが、よくよく考えれば昔からやってきた延長線上にあれば、これを改め英語のキャッチフレーズにしておりますが、もういちどそこでライフスタイルを見直して先人の知恵に学ぶということもでてくるのではないかと。これをつかすと、非常にライフスタイルがかわってくるだけではなく、地球上の穏やかな平和にまで繋がるかもしれません。

こういう状況のなかでうまく知恵を活かして使っていくことによって、エネルギー問題が沈静化すれば世界の平和というものにも貢献できるかもしれません。ということは私たち一人一人が居ながらにして、別にアタッシュケースをもって国際会議に出て行かなくても、家の中で生活様式を考えるだけで、地球にやさしい行動・貢献ができるかもしれません。その鍵が実は今の3つのR、プラスもう1つのRで4つのRにしましょうか。環境によくないものをNOといえるかどうか、過剰包装をお断りできるかどうかそういうようなことにかかっているのではないかと思います。

今日はさまざまなくみについて具体的に表彰された方もいらっしゃったようですが、こういうキーワードをもとにもう一度見直していく、そしてさらに外に向かって発信していく。さきほど中国はめざましい勢いで進歩しているといいました。経済成長、発展しているといいましたが、これから公害を出そうとしているところに公害を既に克服した国の知恵・ノウハウを持って行けば出さずにすむかもしれません。違う道で、ソフトパスといったりしますが、違う道を通して同じ反映に行き着いてくれれば、地球に対しての負荷が押さえられるかもしれません。というような役割をわたしたちが果たすことができれば、大きな貢献になるのではないのでしょうか。

大変つたない話をまとまりもなくさせていただいているうちにすっかり時間となりました。キーワード3Rということですが、もう一度足下からみなおして私たちの行き方自体がすてきね、この生き方が素敵だから、世界中の人々が日本人みたいな素敵なライフスタイルをしましょう。こういう世の中が来ると本当の幸せ、豊かさというものを実現できるのではないかなどと思いながらつたない話を終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。

## 1 合唱「みんなでへらそうCO<sub>2</sub>」



## 2 環境活動報告

私たち常磐小学校は、昨年「なごやスクールISO」の、認定を受けました。

委員会の活動を通して、自分たちでできる環境活動を、全校に呼びかけています。

ぼくは、リサイクル委員長です。毎月1回「パックボトルデー」として、ペットボトルと牛乳パックの回収を全校児童に呼びかけています。

わたしは、美化委員長です。そうじの時間には、曜日ごとに分別を決めて、教室のごみを集めるようにしています。

すべての教室には、紙のリサイクルボックスがあり、裏の白い紙と、両面が使われている紙に分けています。

裏が白い紙を再利用したり、両面使った紙をたばねて回収したりしています。

## 大会宣言

緑の森、藤前干潟に飛び交う鳥たち、皆私たちの仲間です。

私たちは、愛地球博で環境を守ることの大切さや心構えを学びました。

私たちは、未来の子どもたちとの約束を守ります。

豊かな地球、限りある資源を未来に伝えていきます。

そのため、最初に始めるのが、リデュース(手作り看板を見せて)

レジ袋や無駄なものを断る、ごみが出にくいものを選びます。

次に大事なことは、リユース(手作り看板を見せて)

使えるものは繰り返し使います。

それでもいらなくなったものは、リサイクル(手作り看板を見せて)

きちんと分けて、もう一度資源として使います。

ものを作る人、売る人、買う人、地域の人や行政の人

大人も子どもも、みんなが協力し合い、

資源の無駄遣いがなく、豊かな環境がいつまでも続く循環型社会に変えましょう。

環境を守り、地球に優しい行動を、

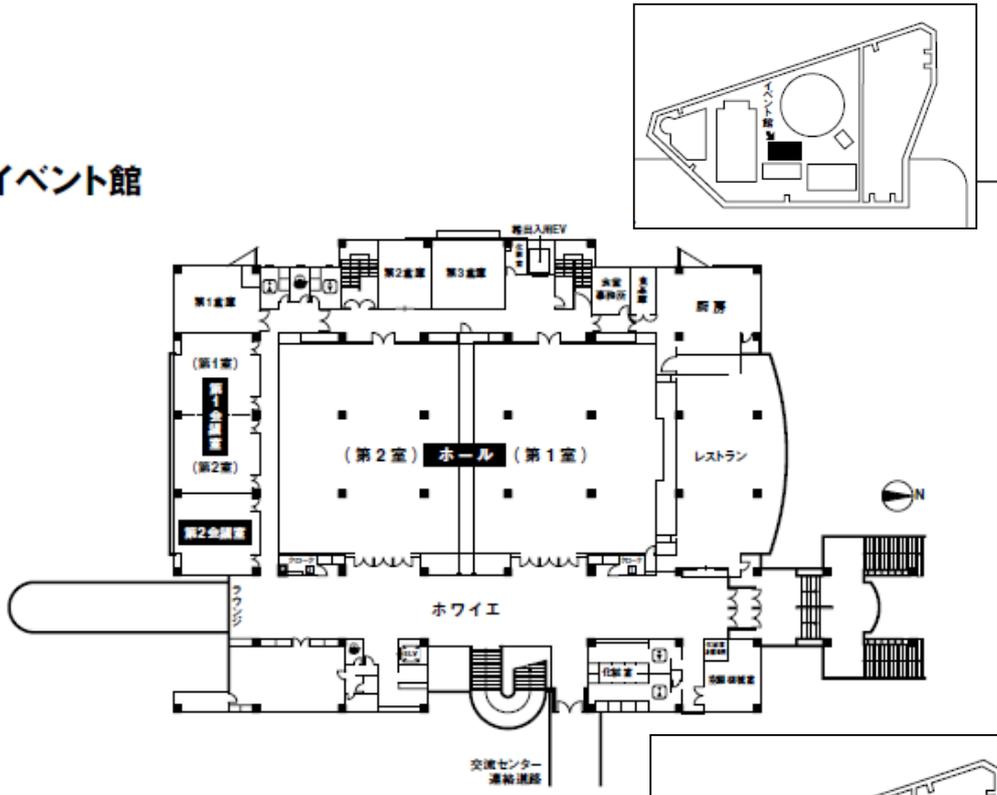
リデュース、リユース、リサイクル！(手作り看板を見せて)



## 第1回3R推進全国大会 関連イベント開催結果

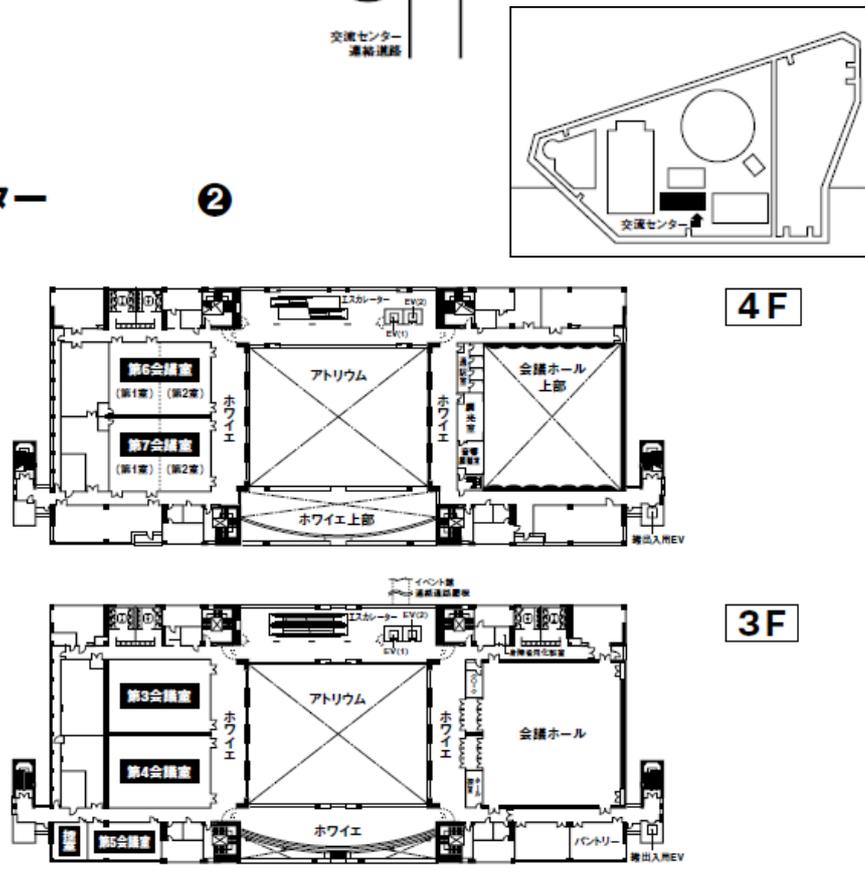
# 会場案内図

## イベント館



## 交流センター

②



イベント名	ごみゼロ社会推進あいち県民大会
開催日時	10月19日(木) 午前10時30分～11時30分
開催場所	イベント館 ホール
主催(共催)	ごみゼロ社会推進あいち県民会議
開催内容	<p>1 ごみゼロ推進優良店の表彰          アピタ豊田元町店(豊田市) ギャラリー共栄窯(常滑市)          釘正(くぎしょう)商店(常滑市) ユニー常滑店(常滑市)</p> <p>2 事例発表及び講演          (1) ユニー常滑店におけるごみゼロの取り組み          ユニー(株)常滑店長 山岡祥一氏          (2) 講演「市民が取り組む生ごみ減量活動」          NPO法人 生ごみリサイクルネットワーク中部 広川雄三氏</p>
 	

イベント名	循環型社会形成推進先進事例発表会
開催日時	10月20日(金) 午前10時～正午
開催場所	交流センター 4階 第6会議室
主催(共催)	環境省・3R活動推進フォーラム
開催内容	<p>「工場副産物からの有価品製造の取り組み」          三和酒類株式会社 環境エッジ・コリアン'部エッジ・コリアン'室          室長 中野健二氏</p> <p>「バイオエナジー社の行う食品リサイクルの取り組み」          バイオエナジー株式会社 代表取締役 石井邦夫氏</p> <p>「循環型社会・ゼロエミッションの推進にむけて」          有限責任中間法人堺臨海エコファクトリーズ協議会          事務局長 中川美夫氏</p> <p>「地域力を生かした資源循環型社会づくりへの取り組み」          池田町役場振興開発課 主査 飯田ひろみ氏</p>
 	

イベント名	容器包装リサイクル法改正説明会（3R推進中部地方大会）
開催日時	10月20日（金）午前10時30分～正午
開催場所	交流センター 3階 第4会議室
主催（共催）	環境省中部地方環境事務所
開催内容	容器包装リサイクル法の改正について 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 室長補佐 松浦 明氏
	

イベント名	3R事例発表・交流会（3R推進中部地方大会）
開催日時	10月20日（金）午後2時～4時45分
開催場所	交流センター 4階 第6会議室
主催（共催）	環境省中部地方環境事務所
開催内容	<p>1 3R推進事例発表</p> <p>(1)長野県千曲市・食品トレイ減らし隊 千曲市環境市民会議 笠井雪子 氏</p> <p>(2)岐阜県輪之内町・ピープルズコミュニティ NPO法人 ピープルズコミュニティ 事務局長 浅野かつ代 氏</p> <p>(3)岐阜県多治見市・中間法人 グリーンライフ21 中間法人 グリーンライフ21 代表理事 加藤誠二 氏</p> <p>2 パネルディスカッション ～3R推進と関係者間のパートナーシップ構築に向けて～ コーディネーター：中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部） 所長 新海洋子 氏 パネラー：千曲市環境市民会議 笠井雪子 氏 NPO法人 ピープルズコミュニティ 事務局長 浅野かつ代 氏 中間法人 グリーンライフ21 代表理事 加藤誠二 氏 ジャーナリスト・環境カウンセラー・ NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット理事長・ NPO法人 新宿環境活動ネット代表理事 崎田裕子 氏 環境省中部地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課長 筒井誠二氏</p>
	

イベント名	事業者向け廃棄物処理法セミナー（3R推進中部地方大会）
開催日時	10月20日（金）午後1時～5時
開催場所	交流センター 3階 第4会議室
主催（共催）	環境省中部地方環境事務所
開催内容	<p>電子マニフェストの普及に向けた取組と活用事例  （財）日本産業廃棄物処理振興センター 情報処理センター  普及部 麻戸敏男 氏</p> <p>廃棄物処理法の法令遵守と3R推進に係る建設業における取組事例  佐藤工業株式会社 事業開発本部 環境事業部 課長 石橋 稔 氏</p> <p>廃棄物処理法 - 排出事業者はどのようなことに留意すべきか -  （財）産業廃棄物処理事業振興財団 適正処理推進部  次長 猿田忠義 氏</p>
	

イベント名	中部圏ユース3Rフォーラム（3R推進中部地方大会）
開催日時	10月21日（土）午後2時～4時30分
開催場所	交流センター 3階 第3会議室
主催（共催）	環境省中部地方環境事務所
開催内容	<p>エコロジーユースダイアログ  「循環型社会に向けた取組推進に向けて」  “3Rってぶっちゃけどうなの？”  “事業者のゴミってでら多くない？”  “っていうか、本当に減ってる？” などなど</p> <p>司会：鵜飼 哲氏（中部環境パートナーシップオフィス）  DJ・VJ：杉山雅彦氏（Photo Studio Peace、BeGood Café 静岡）  オーガニックフェアトレードセルフカフェ：（有）フェアトレーディング</p>
 	

イベント名	パネル ディスカッション「ごみの発生抑制を促す情報提供のあり方」
開催日時	10月20日(金) 午後1時～3時30分
開催場所	交流センター3階 第3会議室
主催(共催)	NPO 環境文明21、3R活動推進フォーラム
開催内容	<p>家庭ごみの減量化、さらにはその発生抑制をめざして、リサイクルの徹底、ごみ処理有料化等に先進的に取り組まれている3市、市と様々な型でパートナーシップを組んでいるNPOにご参加いただき、行政の広報のあり方等について討論するとともに、企業にもご参加いただき、企業の視点から行政の広報をどのように見ているのかについて意見交換を行いました。</p> <p>&lt;パネリスト等&gt;</p> <p>パネリスト 名古屋市環境局ごみ減量部減量推進室長 古谷伸比固氏  北九州市環境局環境政策部計画課長 小南純一郎氏  多治見市環境経済部環境課廃棄物対策 グループリーダー  藤井 憲氏  NPO 法人中部リサイクル運動市民の会代表理事 萩原喜之氏</p> <p>コメンテーター リコー中部(株)CSR推進室 柴垣民雄氏  コーディネーター NPO 法人 環境文明21 理事 藤村コノエ氏</p>
	
 	

イベント名	ごみゼロチャレンジャー全員集合
開催日時	10月21日(土) 午前10時30分～11時30分
開催場所	交流センター 4階 第6会議室
主催(共催)	3R活動推進フォーラム
開催内容	<p>(参加児童) 名古屋市立成章小学校4年生</p> <p>(司会・指導) 環境カウンセラー 崎田 裕子氏</p> <p>(プログラム) 1 参加者のごみゼロチャレンジの発表</p> <p>ごみを減らすために取り組んだ様々な工夫について、参加者から発表した。</p> <p>その後、参加者のごみゼロチャレンジの体験を振り返って、ごみを減らすために何をしたらいいか、参加者みんなでアイデアを出し合い、自由に意見を述べあった。</p> <p>2 ごみの話</p> <p>名古屋市はどうやってごみを減らしたか、名古屋市のごみのゆくえは等、名古屋市から説明、参加者の名古屋市のごみに対する関心が高まった。</p>



イベント名	循環型社会づくり・ワークショップ
開催日時	10月21日(土) 午前10時～午後0時30分
開催場所	交流センター 3階 第4会議室
主催(共催)	名古屋市
開催内容	<p>ごみ処理の新しい計画(第4次一般廃棄物処理基本計画)の策定にあたり、多くの人の思いや知恵を盛り込んでいくため、市民参加による循環型社会に向けたワークショップを開催しました。</p> <p>このワークショップでは、市民が3R行動をするときの壁とこれを乗り越えるために何ができるか、企業や行政と協力して何ができるかを、市の情報提供や市保健委員会副会長の講演などを通してまとめ、意見交換を行いました。最後に、3Rを推進するための参加者の次の一歩をまとめ、計画策定へのメッセージを発信しました。</p>



イベント名	市民がつくる「名古屋ルール」フォーラム
開催日時	10月21日(土) 午後1時30分～4時
開催場所	交流センター 3階 第4会議室
主催(共催)	市民がつくる「名古屋ルール」フォーラム実行委員会 <協力>なごや循環型社会・しみん提案会議実行委員会

冒頭、このフォーラムの開催趣旨の説明があり、自己紹介を兼ねて、循環型社会に関するバックグラウンドや参加動機について発言が行われた。

その後、名古屋市による「第4次一般廃棄物処理基本計画」の策定をきっかけにはじまった、「なごや循環型社会・しみん提案会議」の設立経緯や目的などについて説明のあと、パネリストからそれぞれ発言があり、身近なごみ問題に関する問題点と改善策を出し合うことで市民意識の向上につなげる参加型のワークショップが開催されました。

開催内容

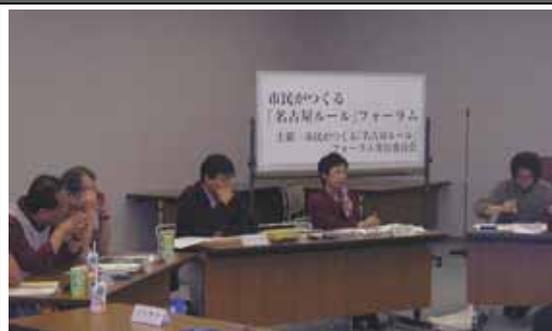
パネリスト(五十音順)

飯尾 歩氏(中日新聞 論説委員)

岩月宏子氏(あいちゴミ仲間ネットワーク会議 代表)

小山祥之氏(名古屋市環境局ごみ減量部減量推進室 主幹)

萩原喜之氏(NPO法人中部リサイクル運動市民の会 代表理事)



イベント名	あいちクリーン活動推進大会
開催日時	10月20日(金) 午前10時~正午
開催場所	交流センター 3階 第3会議室
主催(共催)	愛知県
開催内容	<p>1 講演「全国に広がる新しいまち美化活動 - アダプト・プログラム」 講師 社団法人食品容器環境美化協会 審議役 谷津直生氏</p> <p>2 クリーン活動事例発表 (1) 「恵みの海に感謝の清掃」 発表者 もちづきマリーンクラブ(半田市) 佐野勝行氏 (2) 「我が社の環境美化活動」 発表者 株式会社マスター(一宮市) 代表取締役 廣瀬國忠氏</p>



イベント名	パッチワークで作ろうMY箸袋
開催日時	10月20日(金) 午前10時~正午、午後1時~3時
開催場所	イベント館 2階 第1会議室
主催(共催)	第1回3R推進全国大会実行委員会 <協力>NPO法人 キルトネットワークジャパン
開催内容	廃ネクタイからキルト作品を作成



イベント名	リサイクル紙すき工作教室
開催日時	10月21日(土) 午前10時~正午、午後1時~3時
開催場所	イベント館 2階 第1会議室
主催(共催)	第1回3R推進全国大会実行委員会 <協力> 福田三商株式会社
開催内容	リサイクル紙パックによる紙すき教室により、はがき(押し花付等)を作成しました。



イベント名	環境映画上映会
開催日時	10月21日(土) 1回目 午前10時30分～、2回目 午後2時30分～
開催場所	交流センター 3階 会議ホール
主催(共催)	第1回3R推進全国大会実行委員会
開催内容	05年度環境省の3R推進キャンペーン作品である 「ロボッツ」を上映



イベント名	リサイクル戦隊「ワケルンジャー」ショー
開催日時	10月21日(土) 正午～
開催場所	交流センター 3階 会議ホール
主催(共催)	環境省中部地方環境事務所
開催内容	ごみ分別をPRするため、子供を含めて誰にでも分かりやすいようにしようと、子供たちに人気の「戦隊シリーズ」で、ドラマ仕立てのパフォーマンスを行いました。



イベント名	ポスターコンクール入選作品の展示
開催日時	期間中(10月19日~21日)
開催場所	第3展示館 3R関連ブース出展場所
主催(共催)	第1回3R推進全国大会実行委員会
開催内容	<p>環境省が例年実施する、3R促進ポスターコンクール。3R推進全国大会式典において、環境大臣表彰された最優秀作品の3点(小学生低学年、同高学年及び中学生の各部門1点)及び全国から選ばれた小中学生の入選作品全43点を展示。</p> <p>平成18年度については、応募総数が小学生低学年の部で2,260点、小学生高学年の部で5,795点、中学生の部3,527点、合計11,582点でした。</p>

イベント名	シンボルモニュメントの展示
開催日時	期間中(10月19日~21日)
開催場所	交流センター 1階 エントランス
主催(共催)	第1回3R推進全国大会実行委員会
開催内容	<p>日本国際博覧会『愛・地球博』で展示され話題となった、「地球キルト」を3Rのシンボルとして再度お目見え(リユース)。入場ゲートにアイキャッチモニュメントとして展示しました。</p>

イベント名	食器洗浄車「アラウくん」の展示・実演
開催日時	期間中(10月19日~21日)
開催場所	第3展示館 屋外
主催(共催)	名古屋市
開催内容	食器洗浄車「アラウくん」は繰り返し使えるリユース食器とそれを洗浄する食器洗浄機、食器乾燥機などを搭載した車両です。イベントなどでリユース食器を使用することにより、容器ごみと二酸化炭素の排出を削減することができます。
 	

イベント名	燃料電池車の展示・試乗会
開催日時	期間中(10月19日~21日)(ただし、21日は展示のみ)
開催場所	第3展示館 屋外
主催(共催)	愛知県・名古屋市
開催内容	燃料電池車は燃料電池で発電した電気によって走行する自動車で、有害な排出ガスを出さず、騒音も少ない環境にやさしい次世代の低公害車です。
 	

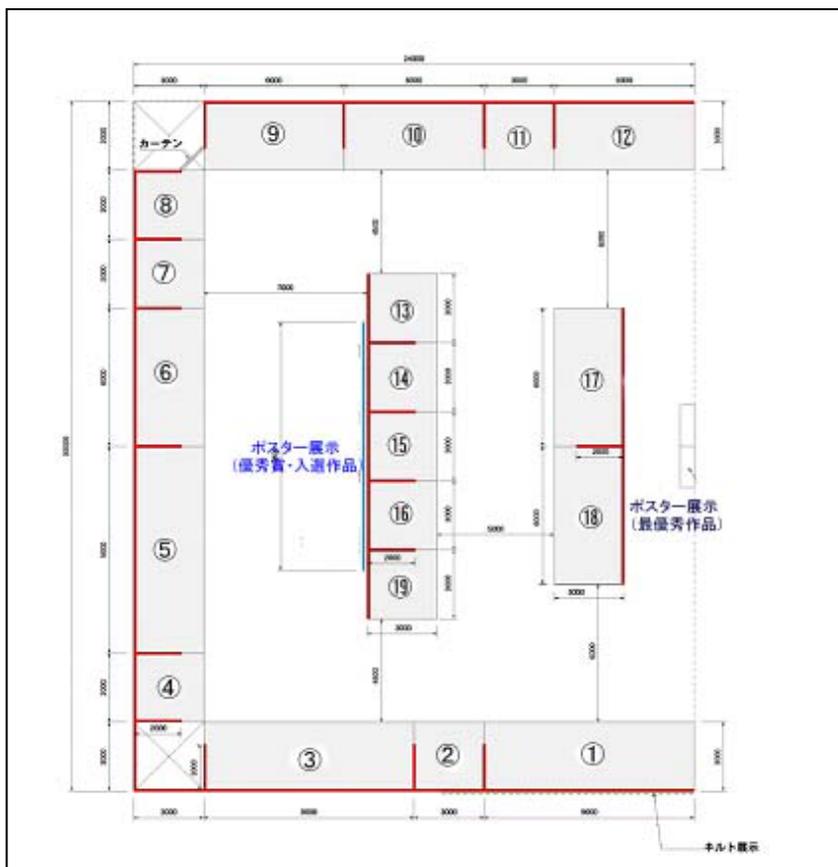
イベント名	エコツアー
開催日時	10月20日(金)
開催場所	
主催(共催)	第1回3R推進全国大会実行委員会
開催内容	<p>&lt;コース&gt;</p> <p>中部国際空港・新エネ発電所コース</p> <p>午前の部 10:00～15:00 (休憩時間1時間を含む)</p> <p>午後の部 13:00～17:00</p> <p>藤前・稲永ラムサールコース</p> <p>シャトルバス周回【1時間コース】 愛知県マイクロバス使用</p> <p>ポートメッセ出発時間 10:00、11:00、13:00、14:00、15:00 の周回</p>



イベント名	リサイクルマンの出演
出演日時	10月21日(土)
出演場所	第3展示館 屋外
主催(共催)	第1回3R推進全国大会実行委員会(環境省)
開催内容	<p>日本テレビの「伊東家の食卓」から「それいけリサイクルマン」でおなじみのリサイクルマンが環境省の招待で第1回3R推進全国大会が開催されているポートメッセなごやに登場。</p> <p>シンボルモニュメントの前で得意のポーズや当日開催されたリサイクル戦隊「ワケルンジャー」ショーに飛び入り参加。リサイクルの大切さを子供達にわかりやすくアピールしました。</p>
 	

第1回3R推進全国大会 ブース出展

### 3 R 推進全国大会 出展ブース レイアウト



- 愛知県、環境パートナーシップ・C L U B、豊橋技術科学大学
- あいち海上の森センター
- (社) 食品容器環境美化協会
- 愛知県環境部
- 特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会
- 3 R 推進団体連絡会
- 株式会社ヨコタ東北
- 特定非営利活動法人稲沢ゴミ 0 協議会
- (社) 愛知県産業廃棄物協会
- 愛知県女性団体連盟・愛知県生活学校連絡会
- 名古屋大学エコトピア科学研究所
- (環境システム・リサイクル科学研究部門伊藤秀章研究室)
- 3 R 活動推進フォーラム
- 環境省中部地方環境事務所
- 中部環境パートナーシップオフィス (E P O 中部)
- 有限責任中間法人パソコン 3 R 推進センター
- 特定非営利活動法人エコデザイン市民社会フォーラム
- 名古屋市環境局
- なごや環境大学実行委員会
- (財) 日本産業廃棄物処理振興センター

出展者	愛知県、環境パートナーシップ・CLUB、豊橋技術科学大学
出展内容	愛知環境賞の紹介とこれまでの受賞企業の紹介
	<p>愛知県は、我が国を先導する資源循環型社会の構築に向け、環境パートナーシップ・CLUB及び豊橋技術科学大学と連携、協働を図りながら様々な事業を推進しています。ここではその取組の一端を紹介しています。</p>

出展者	あいち海上の森センター
出展内容	森林や里山に関する学習と交流の拠点としての取組みの紹介
	<p>愛知万博の原点「海上の森」に、瀬戸愛知県館を改修し、「あいち海上の森センター」が森林や里山に関する学習と交流の拠点施設としてオープンしました。万博当時の様子や現在のセンターの取組みについて紹介します。</p>

出展者	(社)食品容器環境美化協会
出展内容	協会の活動とアダプトプログラムの紹介
	<p>いま各地に急速に広がりつつある、“市民と行政が協働で進める新しいまち美化手法”アダプト・プログラム。同プログラムの仕組みと全国の状況をご紹介します。</p>

出展者	愛知県環境部
出展内容	E A 2 1 (エコアクション21) や環境教育事業の紹介
	<p>経営面や技術面で環境に関する諸問題を抱える企業に対し、各分野の専門家が訪問して現場に即したアドバイスを行い諸問題の解決を支援する「環境経営・環境技術支援事業」や中小企業者向け環境管理システム等の紹介</p>

出 展 者	特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会	
出展内容	「会」が実施している参加型まちづくり事業の紹介、「グリーンマップあいち」の活動紹介等	
		<p>中部リサイクルが実施している参加型まちづくり事業の内容を紹介します。また、「グリーンマップあいち」の活動紹介や簡単なワークショップによるグリーンマップづくりなども体験していただけます。</p>

出 展 者	3 R 推進団体連絡会	
出展内容	3 R 推進のため事業者からの情報発信として、パネル展示、製品紹介	
		<p>3 R をより一層推進するために、「消費者・自治体・事業者の連携」をキーワードに、事業者からの情報発信の一端として、各種パネル、パンフレット、リサイクル製品等を展示。</p>

出展者	株式会社ヨコタ東北	
出展内容	P & P リ・リパック各種、食品トレーリサイクルシステムの紹介	
		<p>汚れたフィルムをはがすだけで、洗わずにリサイクルに参加できるトレーの紹介。</p> <p>再生原料を40～80%活用したトレーの構造</p> <p>福祉施設参加による「トレーto トレー」のリサイクルシステムの紹介。</p>

出展者	特定非営利活動法人稲沢ゴミ0協議会	
出展内容	循環型社会づくりをめざした3Rの取り組みの紹介、「もったいない」の意識調査	
		<p>設立以来14年間の活動の中で、循環型社会づくりを目指した3Rの取り組みを紹介し、「もったいない」コーナーでは、身近にあるもったいないものや関係書籍の展示及び、もったいない心についての意識調査をします。</p>

出 展 者	( 社 ) 愛知県産業廃棄物協会
出 展 内 容	産業廃棄物に関し、資源の3R、適正処理の推進への取り組みを紹介
	<p>産業廃棄物を取りまくいろいろな課題に対して、資源の3R(リユース・リデュース・リサイクル)、適正処理の推進など様々な活動を通して、資源循環型社会の実現に向けて貢献しています。</p>

出 展 者	愛知県女性団体連盟・愛知県生活学校連絡会
出 展 内 容	マイバッグの展示及びマイバッグ運動の紹介
	<p>ゴミ削減のため、レジ袋の使用を控え、買い物袋を持参するマイバッグ運動に取り組んでいます。藍染めや古布を再利用した手作り袋を展示します。ファッションブルなものや男性が持てるものもあり、販売もします。</p>

出展者	名古屋大学エコトピア科学研究所 (環境システム・リサイクル科学研究部門伊藤秀章研究室)	
出展内容	廃プラスチックと古紙から作ったリサイクル板の性質や用途など小中学生にもわかる3R技術の紹介	
		<p>廃プラスチック(たとえば、ペットボトルのキャップ)と使い古した紙ごみ(たとえば、まんが本)からつくったリサイクル板はどんな性質をもっているだろうか、どんなところに使いそうか、について体験的に調べてみます。小中学生でもわかるように、大学院の学生さんが親切に教えてくれます。</p>

出展者	3R活動推進フォーラム	
出展内容	データで見る膨張の世紀	
		<p>20世紀の100年間で「膨張の世紀」として、そのことを人口が3.5倍、穀物生産が7.5倍、エネルギー消費が20倍等のデータで示す一方、この膨張からくる地球温暖化等の課題解決に取り組む必要性和、その課題を解決する技術を持つ日本が、「課題解決先進国」として、世界に発信する必要性和その可能性をパネルと立体模型で展示。</p>

出 展 者	環境省中部地方環境事務所	
出展内容	地域の実情に応じた環境行政を展開するために設置された出先機関における3R活動、廃棄物対策の紹介	
		<p>地域の実情に応じた機動的かつきめ細やかな環境行政を展開するため、昨年10月に新たに設置された環境省の出先機関である中部地方環境事務所の業務のうち、主に3R活動、特に廃棄物・リサイクル対策について紹介します。</p>

出 展 者	中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）	
出展内容	市民・NGO企業・行政の参加による活動の支援拠点としての内容の紹介	
		<p>市民、NGO/NPO、企業、行政間等との対話の場を設け、環境パートナーシップを促進して持続可能な地域社会の実現に取り組みます。企業、行政の環境担当者との意見交換会や、東海地区のESD拠点を担っています。</p>

出展者	有限責任中間法人パソコン3R推進センター
出展内容	パソコンリサイクルの紹介、クイズコーナー
	<p>メーカー等は家庭や個人から廃棄される使用済パーソナルコンピュータを資源として再利用するため、回収および再資源化を行っています。その仕組みを理解いただく為にPCカットモデルの展示やクイズを行います。</p>

出展者	特定非営利活動法人エコデザイン市民社会フォーラム
出展内容	EXPO エコマネー・GREEN ポイントの全国展開の可能性を訴求
	<p>05年11月から取り組まれたEXPOエコマネー継続事業の成果を報告すると共に、この10月から自立事業を目指して新たな段階に入った「EXPOエコマネー・GREENポイント」の現状を、全国的な拡がりの可能性と共に紹介します。</p>

出展者	名古屋市環境局	
出展内容	エコクーびょん、アイドリング・ストップ宣言、エコライフ宣言、路上禁煙の啓発	
	<p>「エコクーびょん」の使い勝手の向上や、団体優遇、参加店拡大に向けた制度変更の紹介。</p> <p>自動車を利用する際、駐停車中は無用なアイドリングを行わないよう「アイドリング・ストップ」の周知と「アイドリング・ストップ宣言」の募集。</p> <p>みんなでへらそうCO<sub>2</sub>エコライフチャレンジシート」の紹介と「エコライフ宣言」の募集。</p> <p>路上禁煙地区の紹介・啓発。</p>	

出展者	なごや環境大学実行委員会	
出展内容	市民・企業・大学が協働で運営する環境学習ネットワークとして開講したなごや環境大学の紹介	
	<p>なごや環境大学は、市民、企業、大学が協働で運営する環境学習のネットワークとして平成17年3月に開講しました。環境に関心のあるすべての企業の皆様を歓迎します。是非、話を聞きに来てください。</p>	

出展者	(財)日本産業廃棄物処理振興センター
出展内容	電子マニフェストの実演を通しての普及啓発
	<p>電子マニフェストはIT化のメリットである「情報の共有」と「情報伝達の効率化」を活用して、排出事業者、処理業者における情報管理の合理化を推進します。さらに、偽造がしにくいいため、都道府県等の廃棄物処理の監視業務の合理化や不適正処理の原因者究明の迅速化に役立つなどのメリットがあります。当ブースでは、この電子マニフェストの実演を通して、普及・啓発を図ります。</p>

出展者	こてんこてんこ
出展内容	ブース付近での3R啓発用チラシ配り
	

広 報 及 び 参 加 人 数 等



# 第1回 3R推進全国大会

Reduce Reuse Recycle

入場  
無料

一部イベントに関しては  
事前登録が必要となります

**Reduce** (リデュース)  
発生抑制  
(ごみをできるだけ出さない)

**Reuse** (リユース)  
再使用  
(使えるものは繰り返し使う)

**Recycle** (リサイクル)  
再生利用  
(再び資源として利用する)



10月19日(木) 20日(金) 21日(土) 会場:ポートメッセなごや (名古屋港金城ふ頭)

午前10時～午後5時

●主催/環境省、愛知県、名古屋市、3R活動推進フォーラム  
●運営/第1回3R推進全国大会実行委員会

第1回3R推進全国大会式典 とき:10月19日(木) 午後1時～4時 12:30開場

ポートメッセなごやイベント館2階ホール 700名 事前登録制

表彰式 ・循環型社会形成推進功労者等表彰  
(環境大臣表彰) ・ポスターコンクールの表彰等

特別講演 ・3R活動推進フォーラム会長  
小宮山 宏氏(東京大学総長)「サステナビリティ学と日本の役割」

アトラクション ・下垣 真希氏(ソプラノ歌手・名城大学大学院講師)

記念講演 ・宮崎 緑氏(千葉商科大学教授)「持続可能な社会をめざして」

地元小学生による大会宣言



下垣 真希氏



宮崎 緑氏

● 開催イベント ●

19(木) ・ごみゼロ社会推進あい知県民大会

20(金) ・あいちクリーン活動推進大会

・循環型社会形成推進先進事例発表会

・「ごみの発生抑制を促す情報提供のあり方」シンポ

・エコツアー

・3R推進中部地方大会

・パッチワークで作ろうMY箸袋

21(土) ・環境映画上映会

・エコキャラクターショー

・リサイクル紙すき工作教室

・ごみゼロチャレンジャー全員集合

・循環型社会づくり・ワークショップ

・市民がつくる「名古屋ルール」フォーラム

・3R推進中部地方大会

19(木)～21(土) ・

・食器洗浄車「アラウくん」の展示・実演

・燃料電池車の展示・試乗会

・環境見本市出展ブース

※当日、展示物の内容及びスケジュール等に変更のある場合があります。また、雨天・強風により、中止になる場合もありますので、予めご了承ください。

イベントの詳細・お申込は右記ホームページをご覧ください。 <http://www.pref.aichi.jp/kankyo/junkan/3rtaikai/>

●問い合わせ 愛知県環境部資源循環推進課 TEL (052) 954-6234

環境省主催の第1回3R推進全国大会

同時開催 メッセナゴヤ2008～環境見本市 2008年10月19日(木)～21日(土) 主催/環境省、愛知県、名古屋市、3R活動推進フォーラム  
燃料電池や光触媒、太陽光パネルのような先端技術の展示から、ごみの減量化や廃棄物処理、リサイクルのための製品や技術、さらに大気や水、土壌等の環境浄化技術等、  
200を超える出展者が「環境」というテーマのもとに自らの展示を競い合います。入場は無料です。「来て、見て、触って、学べる」環境見本市に是非お越し下さい!

メッセナゴヤ事務局(名古屋港工自備内) TEL (052) 223-5700  
[www.nagoya-ccl.or.jp](http://www.nagoya-ccl.or.jp)

# 第1回 3R推進全国大会

Reduce Reuse Recycle

10月19日(木)、20日(金)、21日(土)  
 午前10時～午後5時  
 会場:ポートメッセなごや(名古屋港金城心頭)

**入場無料**

一部イベントに関しては事前登録が必要となります

- [→ 3Rとは](#)
- [→ 式典詳細](#)
- [→ イベントスケジュール一覧](#)
- [→ アクセス等](#)
- [→ 事前登録のお申し込み](#)



**更新情報** NEW

- ・3R推進中部地方大会の詳細を掲載しました。(9/29)
- ・3R推進中部地方大会の参加申し込みを開始しました。(9/29)

主催/環境省、愛知県、名古屋市、3R活動推進フォーラム  
 運営/第1回3R推進全国大会実行委員会

問い合わせ: 愛知県環境部資源循環課 TEL(052)-954-6234  
[愛知県環境部のトップページへ](#)

Copyright(c) Aichi Prefecture 2006 All rights reserved.

# 第1回 3R推進全国大会

Reduce Reuse Recycle

[→ 3Rとは](#)
[→ 式典詳細](#)
[→ イベントスケジュール一覧](#)
[→ アクセス等](#)
[→ 事前登録のお申し込み](#)
[→ トップページへ](#)

**事前登録のお申し込み** NEW 3R推進中部地方大会の申し込みを開始しました。

式典、およびイベント参加の事前登録は、FAXまたはメールにてお申し込みください。

FAX	下記よりPDFファイルをダウンロードし、必要事項をご記入のうえFAXにてお申し込みください。 → <a href="#">PDFファイルのダウンロード(61.7KB)</a>  <b>FAX番号 052-953-7776</b>
メール	下記よりエクセルファイルをダウンロードし、必要事項をご入力の上メールに添付してお申し込みください。件名に「3R推進全国大会参加申し込み」とご記入ください。 → <a href="#">エクセルファイルのダウンロード(19.0KB)</a>  <b>メールアドレス <a href="mailto:junkan@pref.aichi.lg.jp">junkan@pref.aichi.lg.jp</a></b>

※当日、催し物の内容及びスケジュール等に変更のある場合があります。また、雨天・強風により、中止になる場合もありますので、予めご了承ください。

Copyright(c) Aichi Prefecture 2006 All rights reserved.



## 大会記念品



## 協 力

株式会社ポッカコーポレーションとカゴメ株式会社から飲み物の提供がありました。



新聞記事等

あいち暮らしっく9月号  
(愛知県広報誌)

**第1回  
3R推進全国大会が開催されます**

この全国大会は、これまでの「ごみゼロ」から、「3R」という考え方で行われる第1回目の全国大会です。ところで、「3R」という言葉をご存じですか？

**Reduce** (リデュース)・・・ごみをなるべく出さない  
**Reuse** (リユース)・・・使えるものは繰り返し使う  
**Recycle** (リサイクル)・・・再び資源として利用する

みなさんもそれぞれの場面でこの3つのRを思い出して、廃棄物の少ない社会を目指しましょう。

**日時** 10月19日(木)～21日(土) 10:00～17:00  
**会場** ポートメッセなごや(名古屋港金城ふ頭)

**主なイベント**

**10月19日(木)**  
 3R推進全国大会記念式典(循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰、宮崎緑氏による記念講演、アトラクションなど)

**10月20日(金)**  
 エコツアー、パッチワークで作ろうMY箸袋など

**10月21日(土)**  
 環境映画の上映、リサイクル紙すき工作教室など

そのほかにも、「環業見本市」でのブース出展、シンポジウムなどが開催されます。大会の詳細・参加申込みは、ホームページ(<http://www.pref.aichi.jp/kankyo/junkan/3rtaikai/>)をご覧ください。

■問合せ先 環境部資源循環推進課 ☎052-954-6234

中部経済新聞(9月4日)

**「3R」活動を啓蒙**

来月19日から初の全国大会

「ごみゼロ推進全国大会」として今回開催される「3R」活動は、循環型社会形成推進功労者表彰や「3R促進ポスターコンクール」の表彰など、表彰式のほか、「3R活動推進フォーラム」会長で東京大学総長の小宮山宏氏が「サステイナビリティー」をテーマに特別講演、千葉商科大学教授の宮崎緑氏が「持続可能な社会をめざして」と題して記念講演する。大会にあわせて「ごみゼロ社会推進あいち県民大会」や「あいちクリーン活動推進大会」、「3R推進中部地方大会」のほかシンポジウムやワークショップ、講演会も予定されている。

「3R」活動とは、リデュース(減らす)、リユース(再利用)、リサイクル(資源循環)の3つを指す。リデュースは、ごみを減らすこと、リユースは、繰り返し使うこと、リサイクルは、資源を再利用すること。これら3つを組み合わせることで、ごみを減らし、資源を有効に活用し、環境を保護することができる。

中日新聞(9月7日)

**第1回 3R推進全国大会** 10月19日(木) 20日(金) 21日(土)

Reduce Reuse Recycle

**会場:** ポートメッセなごや(名古屋港金城ふ頭)  
 午前10時～午後5時

**開催イベント**

**19(木) 第1回3R推進全国大会式典**  
 ・ごみゼロ社会推進あいち県民大会  
 ・あいちクリーン活動推進大会  
 ・循環型社会形成推進功労者表彰発表会  
 ・「ごみの発生抑制を促す情報提供のあり方」シンポジウム  
 ・エコツアー  
 ・3R推進中部地方大会  
 ・パッチワークで作ろうMY箸袋

**20(金)**  
 ・エコキャラクターショー  
 ・リサイクル紙すき工作教室  
 ・ごみゼロチャレンジジャー全員集合  
 ・循環型社会づくりワークショップ  
 ・市民がつくる「名古屋ルール」フォーラム  
 ・3R推進中部地方大会

**21(土)**  
 ・食器洗浄機「アラウくん」の展示・実演  
 ・燃料電池車の展示・試乗会  
 ・環業見本市出展ブース

**入場無料**  
 一部イベントに限り、事前登録が必要となります

**Reduce** (リデュース) 発生抑制 (ごみをできるだけ出さない)  
**Reuse** (リユース) 再利用 (使えるものは繰り返し使う)  
**Recycle** (リサイクル) 再生利用 (再び資源として利用する)

イベントの詳細・お申込は右記ホームページをご覧ください。<http://www.pref.aichi.jp/kankyo/junkan/3rtaikai/>  
 ●問い合わせ 愛知県環境部資源循環推進課 TEL(052)954-6234



# 「3R」一層推進を

## 環境考える全国大会開幕

名古屋

ごみを通して環境問題（再生利用）リサイクルについて考える第一回3R推進全国大会（環境省など主催）が十九日、名古屋市港区のポートメッセなごやで始まった。開式には約六百五十人が参加し、東京大の小宮山宏学長や元NHKキャスターで千葉商科大教授の宮崎緑さんが講演した。3Rは、ごみのリデュース（発生抑制）リユース（再利用）リサイクル（再生利用）の略。宮崎さんは「3RにもうひとつのR、リファース（断る）を加え、スーパード断るなど不必要なものを断ることも環境対策につながる」と指摘した。

式典では、常盤小学校（同市中山区）の児童らが、牛乳パックやペットボトルの回収など取り組んでいる環境活動を発表

した。イベントは二十一日まで、講演や環境活動の事例発表をする「あどがある」(田中干晴)

# 「ごみ減量推進員は」3Rマイスター

## 環境省が愛称決定

環境省は十九日、来年四月施行の改正資源包装リサイクル法に基づいて容器包装ごみの減量をPRする排出抑制推進員の愛称を「3R推進マイスター」に決めた。

同省が親しみやすい愛称を公募。約四百五十件の応募の中から、愛知県春日井市在住の広川雄三さんの作品を選んだ。3Rは、ごみの発生抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再生利用（リサイクル）の頭文字で、マイスターは熟練者の意味。

推進員には環境団体の代表者や文化人、スポーツ選手らを中心に百人程度を起用する方針で、環境相が来年四月に委嘱する。

## 第1回 3R 推進全国大会 報道取材リスト

番号	報道機関等	媒体	放映・掲載日時
1	愛知県広報広聴課	県行政広報番組	10月28日 レポートあいち
2	(株)日報アイ・ピー	月間廃棄物	12月号
3	中日新聞社	中日新聞	10月20日朝刊
4	(株)環境新聞社	環境新聞	10月18日
5	(株)時局社	週刊「時局」	12月号
6	NHK	テレビ放送	10月19日 8時のニュース
7	(株)環境産業新聞	The Waste management	10月25日
8	スターキャット・ケーブルネットワーク(株)	ケーブルテレビ	10月19日 5時のニュース (再放送 11時)
9	名古屋テレビ (メーテレ)	名古屋市行政広報番組	10月29日 なごやシティ・ナウ
10	日本テレビ	伊東家の食卓～ それいけリサイクルマン	ネット配信

## 参加人数

開催日	イベント内容	主催	参加者数 (名)
10月19日 (木)	第1回3R推進全国大会式典	実行委員会	650
	ごみゼロ社会推進あいち県民大会	ごみゼロ社会推進 あいち県民会議	450
	燃料電池車の展示・試乗会	実行委員会 (愛知県・名古屋市)	540
	食器洗浄車「アラウくん」の 展示・実演	実行委員会 (名古屋市)	110
10月20日 (金)	あいちクリーン活動推進大会	愛知県	80
	3R推進中部地方大会 (容器包装リサイクル法改正説明会)	中部地方環境事務所	60
	3R推進中部地方大会 (事業者向け廃棄物処理法セミナー)	中部地方環境事務所	60
	3R推進中部地方大会 (3R事例発表・ パネルディスカッション)	中部地方環境事務所	60
	循環型社会形成推進先進事例 発表会	環境省・3R活動推進 フォーラム	130
	パネルディスカッション「ごみの発生 抑制を促す情報提供のあり方」	NPO 法人環境文明 21・3R活動推進フォーラ ム	70
	パッチワークで作ろうMY箸袋	実行委員会 (協力：NPO 法人 キルトネットワークジャパン)	30
	エコツアー (中部国際空港・新エネ発電所コース)	実行委員会	52
	エコツアー (藤前・稲永ラムサールコース)	実行委員会	49

10月20日 (金)	燃料電池車の展示・試乗会	実行委員会 (愛知県・名古屋市)	570
	食器洗浄車「アラウくん」の 展示・実演	実行委員会 (名古屋市)	108
10月21日 (土)	環境映画上映会	実行委員会	485
	リサイクル戦隊「ワケルンジャー」 ショー	実行委員会 (中部地方環境事務所)	210
	循環型社会づくり・ワークショップ	名古屋市	30
	市民がつくる「名古屋ルール」 フォーラム	市民がつくる「名古屋ル ール」フォーラム 実行委員会	20
	ごみゼロチャレンジャー全員集合	3R活動推進フォーラム	35
	3R推進中部地方大会 (中部圏ユース3Rフォーラム (3Rコミュニティカフェ))	中部地方環境事務所	25
	リサイクル紙すき工作教室	実行委員会 (協力:福田三商株式会社)	80
	燃料電池車の展示	実行委員会 (愛知県)	450
	食器洗浄車「アラウくん」の 展示・実演	実行委員会 (名古屋市)	88
3日間 合計			4,442

### 出展ブース 参加者 (同時開催の環業見本市主催者発表)

開催日	参加者数(名)
10月19日(木)	12,200
10月20日(金)	15,500
10月21日(土)	9,480
計	37,180

## 第1回 3R推進全国大会実行委員会設置要綱

### (名称)

第1条 本会は、第1回3R推進全国大会実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

### (目的)

第2条 実行委員会は、資源循環型社会の形成に向けて、より広範な3R活動の推進を図ることを目的に開催する第1回3R推進全国大会を実施するために組織する。

### (組織)

第3条 実行委員会の委員は、別表に掲げる者をもって構成する。

### (役員)

第4条 実行委員会には、次の役員を置く。

- |          |    |
|----------|----|
| (1) 委員長  | 1名 |
| (2) 副委員長 | 1名 |
| (3) 監事   | 2名 |

2 委員長は、愛知県環境部長をもって充てる。

3 副委員長は、名古屋市環境局長をもって充てる。

4 監事は、愛知県副出納長兼出納事務局長及び名古屋市副収入役をもって充てる。

### (役員 の 責務)

第5条 委員長は、実行委員会を代表し、会務を総括する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

3 監事は、実行委員会の会計事務を監査する。

### (事業)

第6条 実行委員会は、第2条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 第1回3R推進全国大会の開催に関する事
- (2) 大会イベントに関する事
- (3) その他目的の達成に必要な事項

### (会議)

第7条 実行委員会の会議は、委員長が招集する。

2 会議の議長は、委員長をもって充てる。

(議決事項)

第8条 実行委員会は、次の各号に掲げる事項を決議する。

- (1) 事業計画及び予算
- (2) 事業報告及び決算
- (3) その他必要と認める事項

(事務局)

第9条 事業の円滑な運営を図るため、実行委員会に事務局を置く。

2 事務局に事務局長及び事務局員を置き、事務局長は、愛知県環境部資源循環推進課長をもって充て、事務局員は、別表の主催者から各々1名を選任する。

(庶務)

第10条 実行委員会及び事務局の庶務は、事務局長が処理する。

(解散)

第11条 実行委員会は、事業を完了し、決算の承認を得られたときに解散する。

(その他)

第12条 この要綱に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成18年5月16日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年7月26日から施行する。

第1回 3R推進全国大会 実行委員会 委員

部 門	団体名	職	氏 名
主催者	環境省	廃棄物対策課長	関 莊一郎 (粕谷 明博)
		中部地方環境事務所長	青山 銀三 (上原 裕雄)
	愛知県	環境部長	林 清比古
	名古屋市	環境局長	大井 治夫
	3R活動推進フォーラム	事務局長	庄司 元
消費者、 事業者、 各種団体、 NPO等 (氏名の五十音順)	愛知県衛生事業協同組合	理事長	相木 邦昭
	(社)中部経済連合会	技術部長	井上 衛
	ごみゼロ社会推進あいち県民会議	副会長	加藤 愛子
	(社)愛知県産業廃棄物協会	会長	近藤 成章
	名古屋商工会議所	企画振興部長	成田 多喜夫
	中部リサイクル運動市民の会	代表理事	萩原 喜之
	名古屋市保健委員会	会長	藤野 賢吉
	稲沢ゴミ0協議会	事務局長	山川 幹子
学識者	名古屋大学エコトピア科学研究所	環境システム・リサイ クル科学研究部門教授	伊藤 秀章

は委員長、 は副委員長  
( )は平成18年7月25日まで就任

第1回 3R推進全国大会 実行委員会 監事

団体名	職	氏 名
愛知県	副出納長兼出納事務局長	伊藤 和隆
名古屋市	副収入役	加藤 博久